



ゆるめな

- ▶ 理事長のあいさつ
- ▶ **パワーリハビリテーション導入**
- ▶ 腹膜透析について（新たな透析液の登場）
- ▶ 血液透析室スタッフ



病院理念

信頼される医療・保健・福祉を提供し、地域の健康増進に貢献する

基本方針

良質な医療を提供するため、心と技術を磨く努力を惜しみません
患者の権利、尊厳、安全を重視した医療を提供いたします
医療、福祉と連携を持ち、急性期医療から在宅医療まで、全員参加で取り組みます

● 理事長のあいさつ

秋深くなり、紅葉の美しい頃となりました。気候温暖な香川でも山間部では、銀杏やもみじのあざやかな紅葉が見られます。全日本病院学会での演題発表が無事終了後ホッとする間もなく、10月の介護保険改定対応に追われ、めまぐるしい昨今です。居住費、食費が介護保険から外され、利用者負担となり、患者さまへの負担がさらに増えました。また、介護保険サービス提供事業者側にとっても、給付費はかなり減額となりました。しかし、新聞等にて毎日のように受益者負担増が報道されていたためか、殆どの患者さまは納得されており、意外に波風は立たなかったのが実情です。

より質の良いサービスを提供すべく職員一丸となって努力しているのですが、今回の抑制策はその意欲をそぐことにもなりかねません。来春の医療・介護のダブルマイナス改定では、どれだけダウンになるのか危機感でいっぱいですが、患者様を前にして、してさしあげたい医療・介護サービスは山ほどあり、前に向かって進むしかない日々考えを巡らせています。

理事長 森 伊津子

● パワーリハビリテーション導入

リハビリテーション科にパワーリハビリを導入しました。

外来・入院の患者様に対して理学療法士・作業療法士がトレーニングにあたっています。

パワーリハビリテーションとは

高齢者の介護予防、介護量軽減。自立支援の手法として考案されたもので、高齢者用に開発されたマシン（機器）による軽い負荷の反復運動を中心としたトレーニングです。パワーという言葉から、筋肉トレーニングと誤解されるかも知れませんが、筋力強化が目的ではなく、加齢により使わなくなり眠っている筋肉や神経を覚醒させるトレーニングと言われていきます。パワーリハビリテーションの「Power」には以下のような意味があります。即ち、パワーリハビリテーションとは、「高齢者の活動促進、行動変容のために価値ある有効な結果を生み出すリハ戦略」と言えるでしょう。

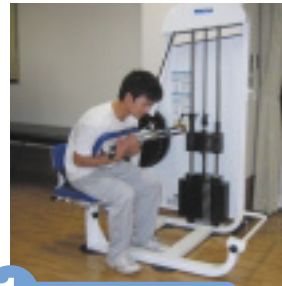


パワーリハビリテーションの対象及び効果

脳血管障害などの中枢神経疾患、骨折や変形性関節疾患などの整形外科疾患、パーキンソン病、加齢または、術後の体力低下により体力増強が必要な方などが対象となり、これらに対する活動性の改善や、軽度の認知症に対する効果も挙げられています。

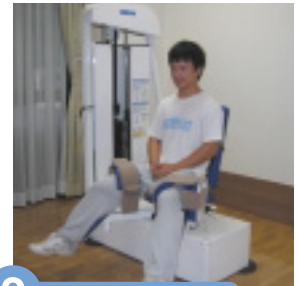
パワーリハビリテーションの手法

当院では、最大4機種のマシンを使用し、週1回から2回（基本的には2回）のトレーニングを3ヶ月間実施します。なお、1日のトレーニング時間は、問診、準備体操、休憩、整理体操を含め1時間から1時間30分程度です。



1 Power Rehabilitation
トローサーエクステンション/
フレクション

体を前・後方に曲げ伸ばしする機能を改善し、立位や歩行が安定してきます。



2 Power Rehabilitation
ヒップアブダクション/
アダクション

股関節を開閉する機能を改善し、立位や歩行が安定してきます。尿漏れ防止の効果もあります。



3 Power Rehabilitation
ホリゾンタルレッグプレス

膝や股関節を伸ばす機能を改善し、立ち上がりが楽になったり姿勢がよくなるなどの効果があります。



4 Power Rehabilitation
バイオステップ

心肺機能を高め、体力向上に効果があります。

パワーリハビリテーションに関する質問は当院リハビリテーション科までお気軽にお申し出下さい。

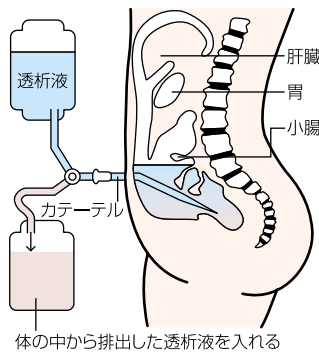
● 腹膜透析

腹膜透析について（新たな透析液の登場） 内科：山地 浩明

腎臓のはたらきが著しく低下した場合には血液透析を受けられる方が大半ですが、そのほかの方法として腹膜透析や腎移植があります。この3つの治療法とも少しずつではありますが確実に進歩しています。3つの治療法の選択にはお国柄があり、オーストラリアのように国土が広く病院が点在しているような国では週に何回も血液透析に病院へ通う事が難しく腹膜透析を行っている方が多くなります。国内では透析患者の約95%が血液透析、残る5%弱の約1万人が腹膜透析を受けています。週に3回程度、病院に通わなければならない血液透析に比べ、自宅でできて社会復帰が容易なのは腹膜透析の方です。しかし、血液透析の方が早くに普及したため腹膜透析の方が適していると思われる方でも血液透析を受けられている方が意外に多いと思われるます。

腹膜透析の最近の進歩としては腹膜機能を低下させにくい新たな透析液が登場したことが挙げられます。現在、一般に人工透析といえば血液透析を指します。この治療法では1回約4時間かけて体の外に引き出した血液から老廃物を取り除きます。多くの人が治療を受けているため特に国内

腹膜透析の原理



では良く改良されて長期間、治療を継続することが可能となりました。しかし、平日は夕方まで動かなくてはならない壮年期の方では食事や時間的な制約が厳しい点が難点と思われます。その点、自宅や勤務先でも1回30分ほどで透析ができるのが腹膜透析の大きな魅力となります。胃や腸などの内臓を覆っている腹膜は腎臓の代わりになる「ろ過作用」を持っているため、腹部にあらかじめ細いチューブ(カテーテル)を埋め込んでおき、2リットルの透析液をお腹の中に入れ、通常1日4回入れ替えて老廃物を除去します。それぞれの生活の時間で可能な時間帯に夜だけとか、午後だけのバック交換も可能です。血液透析が2日から3日に一度に老廃物を除去するのに比べて絶えずおなかの中で老廃物や余分な水分を除去しているので心臓への負担が少なく済みます。

腹膜透析を受けるとなると起床後まず透析液を交換、食事をして出勤し、昼休みに別室で2回目、帰宅して3回目、寝る前に4回目の交換という毎日になります。腹膜透析の短所の一つは、個人によって異なりますが5から6年で腹膜機能が落ちる点です。そうすると血液透析に移行することになりますが最近は腹膜機能の劣化を防ぐ中性の新しい透析液が登場しました。また、透析液の中にブドウ糖を入れて老廃物や余分な水分除去していましたがブドウ糖にかわるもので同じようなはたらきをもつものが利用されるようになってきています。今後は仕事もしたいという方を中心にもっと腹膜透析が普及していくのではないかと思われます。

● 血液透析

～血液透析室スタッフ～

当院人工透析室は、昭和58年11月より透析医療を開始し、21年目を迎えています。透析室開設当初は4床で開始し、平成12年には17床に増床し現在にいたっています。透析室は当院4階に位置し、天気の良い日は遙か瀬戸大橋まで見渡せ、絶好の景観が得られます。当院透析患者様は50名、透析室スタッフは、医師2名、看護師7名、臨床工学技士2名、看護助手1名、栄養士2名で治療にあたっています。また、社会復帰されている方には、夜間透析も行っています。

血液透析とは、腎不全になり、腎臓が殆ど動かなくなったときに行われる治療であり、ダイアライザーと呼ばれる人工透析器(人工半透膜)によって、体の外で血液中の老廃物や水分を取り除き、再び血液を体の中に戻します。この治療法は、30年の実績があり多くの患者様が治療を受けています。近年の透析医療の進歩は目覚ましく、透析治療を受けながら、健康な人と変わらない生活を送ることが出来るようになってきました。しかし、長期透析患者様の増加や高齢化、また、糖尿病性腎症の進行による腎不全患者様の増加しており、合併症も多くなり、複雑化してきています。これらの合併症を予防できるような透析療法や日常生活の管理が必要になってきます。

そこで、当院では、日常生活の管理において、最も大切な「食事療法」について理解を深めていただくために、調理実習を取り入れた栄養指導を月1回行っております。医師、栄養士、透析室スタッフとともに実際

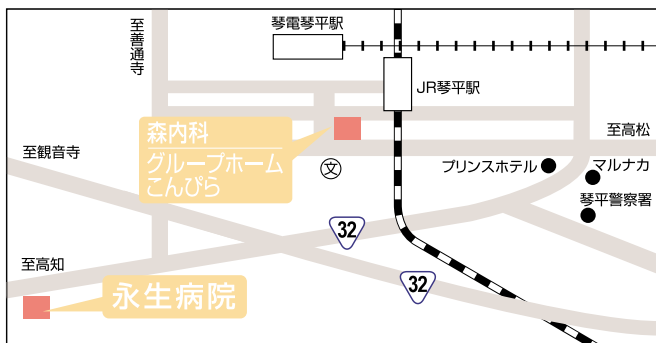
に透析食を調理、試食しながら、日頃の疑問点、相談、なやみ等をともに話し合い考えています。

また、長期透析患者様に起こる合併症に対して、透析濾過法という血液浄化療法を行っています。血液透析濾過法とは、透析と濾過の併用であり、血液透析の状態で強い限外濾過をかけて除水を行い、体液の不足分を置換液で補充する治療法です。置換液とは血漿と等張性のもので希釈液・補充液ともいい、また極めて高度に清浄化された透析液を用いる方法もあります。

透析室のもう一つの特色として、臨床工学技士の存在があります。医療機器を用いた医療をより安全にかつ効果的に遂行するため、医療機器や装置、設備の操作および保守点検を専門的に行います。透析治療に関する機器類のあらゆる不具合に対処し、患者様に安全な透析治療が提供出来るよう努めています。

診療報酬改定のたびに、透析時間の短縮化、検査項目の削減等、患者様、医療機関両者にとって厳しい状況になってきていますが、患者様お一人お一人の安全な透析と生活の質の向上を求めてスタッフ全員研鑽してまいります。





永生病院 130床（一般病棟 40床・療養型病棟 90床）

医療法人 圭良会

- **永生病院** 香川県仲多度郡仲南町十郷221-3
Tel 0877-73-3300

- **いこいの森**（訪問看護ステーション・訪問介護） Tel 0877-73-3700

- **いこいの家**（通所介護） Tel 0877-73-3718

- **いこいの郷**（居宅介護支援事業所・福祉用具貸与事業所） Tel 0877-73-3655

- **森内科** 香川県仲多度郡琴平町167
Tel 0877-73-4188

- **グループホームこんびら** 香川県仲多度郡琴平町167
Tel 0877-73-0811
（認知症高齢者グループホーム）

永生病院広報誌「ゆるぬき」第5号
 発行元：医療法人 圭良会 永生病院
 編集者：医療サービス改善委員会
 住所：〒769-0311 仲多度郡仲南町十郷221-3
 TEL:0877-73-3300
 FAX:0877-73-3202
 永生病院のホームページ <http://www.eisei-hp.or.jp/>
 eメールでのお問い合わせは keiryokai@eisei-hp.or.jp
 発行年月日:平成17年11月1日